常澄中学校だより　「常に澄む」　令和２年４月２４日

「常に正しかれ」・「常に豊かなれ」・「常に気高かれ」　ＮＯ．５

学習状況等確認日　２日目

昨日に引き続き，本日４月２４日（金）を学習状況等確認日とし，学級の残り半分の生徒が登校しました。予想以上に，落ち着いて集中して学習課題に取り組んでいる生徒が多く，授業の再開を待ち望んでいることがその姿から伝わってきました。生徒たちの登校により，学校に活気や活力が蘇ってきたことを実感しました。

教職員一同,「学校は生徒がいて成立するものである」ことを強く感じた次第です。生徒の皆さんも保護者の皆様も，一日も早く学校が正常に再開されることを待ち望んでいることと思います。学校の再開に向けて全ての職員が力を合わせ，今できる教育活動に取り組んでいきます。

（下の写真は，２４日の学校での学習等の様子です。右端の写真は，１年生が自転車置き場でラベルを貼っている様子です。）

【職員作業】

生徒の皆さんが安心して学校生活を送ることができるように，下校後，全職員で教室などの消毒を実施しています。下の写真は１年生の職員による作業の様子です。職員一丸となって感染予防対策に今後も努めていきます。

「右往左往の中学時代」　校長　菊田　修

中学生のころを振り返ると，妙にこだわりが強いところがあったのか，例えば，試験問題でできなかった設問があると，次は確実にできるようにするために，類題が載っている問題集や参考書を探すことに執着しました。学習する時間よりも，「探す」ことに時間をかけていたように思います。成績を上げることよりも，目先の分からない問題が分かることに価値を置いていました。それは，部活動にもあてはまりました。大会で対戦相手に負けると，その相手に勝つということだけを念頭におき，技を紹介している本を集めて研究しました。今思えば，本で研究する時間を練習時間やトレーニングなどの自主練習にあてた方が，より技が上達しもっと強くなっていたのではないかと思います。

目先のことにとらわれずに，その先にある大きな目標を見据えて努力を積み重ねることが大事であるということは今になってようやく分かることです。人生経験の浅い中学生では先が見えないこともまだたくさんあります。いろいろなことにこだわりをもつのが中学生時代であり，それもまた意義のあることだったのかもしれません。